巻頭言

日本女子大学教育学科の会
会　長　　田　部　俊　充

皆様にはますますご健勝のことと存じます。日頃より『人間研究』へお力添えを賜り、誠にありがとうございます。『人間研究』第60号の刊行をお喜び申し上げます。今号は皆様のおかげで7本と多くの投稿を掲載させていただくことができました。ご協力に心より感謝申し上げます。

第60号には「教育学科の会」の記録も掲載させていただいています。2023年10月7日に教育学科の会臨時総会を開催させていただきました。ここで、教育学科の会を現体制のまま存続させることは困難で、2024年3月31日をもって解散させていただく、という提案を承認していただきました。

私も教育学科の理事、卒業生の理事の皆様も、伝統ある教育学科の会を解散に向かわせて良いのか、罪悪感に悩まされながらも検討を重ねました。これからの教育学科と卒業生の方々との望ましい方向性を考えて、卒業生理事の皆様が提案された、理事会運営、後継問題、会費問題などの解決についてです。

教育学科とも問題を共有し、様々な解決策を検討し、2023年度はWEBセミナーを開催するなど必死に解決の糸口を探してきましたが、難しいと判断し、状況が悪化する前に解散という決定が最善である、という結論となりました。

会員の皆様には、このような事態に至ったことに心よりお詫び申し上げます。詳細は機会があったら別の機会に述べさせていただきたいですが、財政的にも立ち行かなくなることが目に見えており、最悪のシナリオを迎える前に理事が一致して下した決定へのご理解を賜れば幸いです。

この原稿を書いている今も、これで良かったのかという煩悶の日々です。この検討のプロセスで感じたのは、活動を支えていただいた、縁の下の力持ちとして膨大な作業をこなしていただいてきた実務担当の卒業生理事の方々の存在です。

多くの卒業生の方にお願いばかり重ねてきたのに、理事の方の定員が足りていないこと、後継者が現れないまま10年、20年も会のための実務を引き受けていただいてきたこと、会費納入が任意となったための課題、そしてそのことに思いを巡らせることができなかったことに、長い間お世話になってきた教育学科の教員の1人として、この場をお借りしてお詫びと感謝を申し上げたいと思います。長い間、本当にありがとうございました。そして思いが至らずに申し訳ありませんでした。

学科で学んだ卒業生と学んでいる在校生をつなぐ絆を元会長の牧野暢男先生は「学縁」と名付けられ、私たちも大切にしてきました。教育学科の会はなくなりますが、卒業生の皆様と教育学科とのつながり、絆がなくなるわけではありません。

今後は教育学科が主体となって、様々な形で卒業生、そして社会に発信していきたい所存です。私は、教育学科としての発信の柱の一つは、10 年経って 70 号を迎えても『人間研究』である、と信じています。

教育学科・教育学専攻では、研究の柱である、卒業論文・修士論文・博士論文の作成、発表会を大切にしてきました。教育学科の研究の顔である『人間研究』は、教育学科教員と在校生・卒業生・修了生の研究成果を発表する大切な場です。成果を投稿する意思があれば執筆することができ、研究成果を多くの方に問い、評価を受ける。これこそが「研究する」ということではないか、と思います。

研究では、選択したテーマが 学術的にどのように位置づけられるのか、そして、研究の独自性や創造性がどこにあるのかが問われます。「何をどのようにどこまで明らかにしようとするか」が求められますし、それに応えることが社会的評価につながります。

私は社会科教育・アメリカ地理教育史・地誌研究を専門としていますが、私たちの分野の学会の研究動向に、『人間研究』第 57 号に掲載していただいた論文を取り上げていただき、年甲斐もなく嬉しくなりました。コロナ禍で『人間研究』の原稿が足りないと聞き、投稿こそが卒業生の皆様との絆だと考え、必死に書き上げました。研究動向に評価していただいたことで、『人間研究』が学術的に高い評価を受けていることを知りました。

私が研究者になったのも、教育の現状に課題を感じて研究を雑誌に投稿し、周囲の方に評価していただいたことが励みになったことが契機でした。成果を投稿する意思がある方は、是非『人間研究』に投稿して頂ければ幸いです。

ご縁があって、今までに 6 名の方の教育学専攻の博士論文の主査をさせていただきました。それぞれの方のご研究から非常に刺激を受けるとともに、私自身もまだまだ新しい研究への好奇心、研究の質を高める意欲を持ち続けたいです。

『人間研究』が明日の教育学科と卒業生の皆様との新たな絆につながることを祈念して、私のご挨拶の言葉とさせていただきます。私も微力ではありますが、これからも卒業生・修了生の皆様と力を合わせて働かせていただきます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。